

木の家づくりを通じて暮らしを提案する

KoKola**b**.

隔月刊ココラボ通信

NO. 101
2023.February

完成現場報告 改修事例 菊川市／『つるの家』

再び母と暮らす 新しくも懐かしい我が家

After

改修後のリビング。南面に大きな木製ガラス窓を設け、栗の床板や杉板の天井、漆喰の壁で仕上げた自然素材の空間。石の薪ストーブを設置し、暖かく明るいリビングになった。



再び母と暮らす
新しくも懐かしい我が家

Before



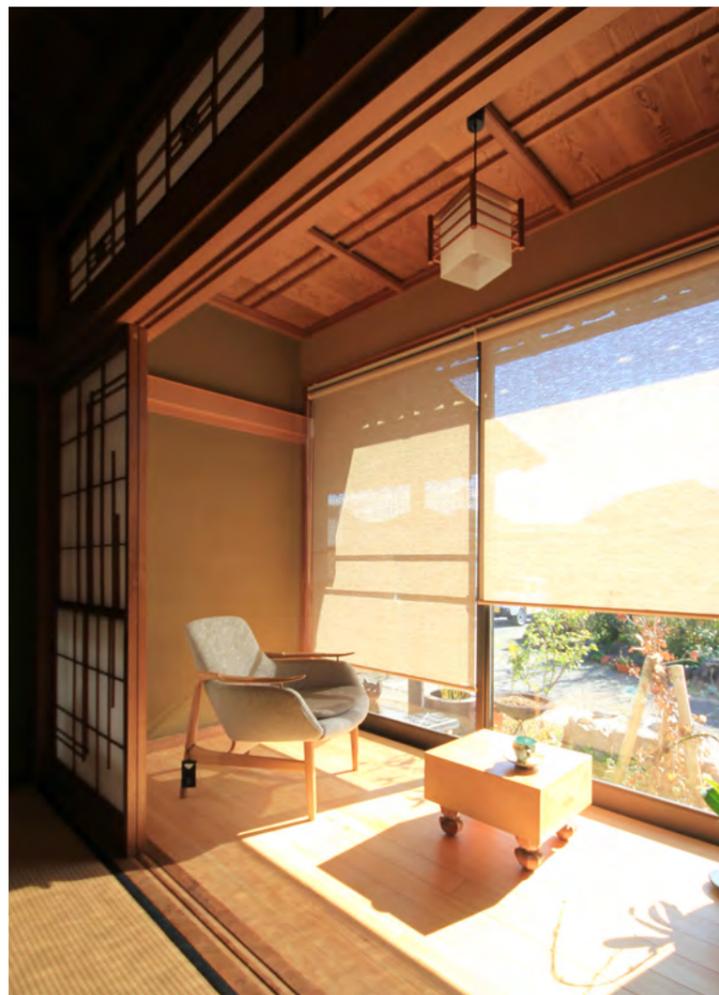
改修前のリビングは板の間と畳の混在する空間だった。床の段差もあちらこちらにあり、今後の暮らしを考えて、バリアフリーの計画が望まれた。

完成現場報告 改修事例
菊川市／『つるの家』
文・写真／コロラボ 山崎健治

昨年春に完成した『つるの家』は、お母さんの暮らす実家を改修し、娘夫婦と新しい暮らしを始めるためのプロジェクトとなりました。施主のTさんご家族と初めてお会いしたのは今から4年程前の春。お母さんと一緒に展示場に来場され、ご実家のリフォーム相談を受け、後日建物を実際に見させていただきました。立派な柱や書院のある和室、玄関も重厚につくられ、大工さんのこだわりを感じる建物でした。和室や玄関に比べ、毎日使っている居間やキッチン、個室などは少し経年変化を感じましたが、それでも大きな問題はなく、そのままでもまだ十分に暮らしていける内装でしたが、部屋の暗さや使い勝手、使わない部屋などもあり、今回の計画は、新しい生活に合わせたリノベーションが必要だと感じました。地元の大工さんがつくっただけあって和の意匠が凝らしてある空間が多く、ご夫婦としては日常を過ごすリビングやキッチン、明るく開放的な雰囲気になりたいという希望もありました。それぞれの希望や建物の特徴を踏まえて、新しい暮らしに向

けての計画をスタートしようとなりましたが、その前にこの建物についてもっと良く知ることが必要で、特に床下や屋根裏などの状態を調査し、耐震性や断熱性についても詳しいデータを取ることが必要でした。Tさんご家族に調査の必要性をお話しし、住宅医チームによる詳細調査を行うことになりました。

住宅医とは、一般社団法人住宅医協会の行う住宅医スクールのカリキュラムを受講し、改修事例を発表する住宅医検定会に合格した建築士が認定を受けます。住宅医スクールの調査方法ははじめ、耐震性や断熱性、劣化や維持管理などについての専門家が講義を行い、基礎から実践までを学ぶスクールとなっています。私も住宅医としての認定を受けていますが、今回の調査はベテラン住宅医の知識や調査方法を見ながら学ばせていただく良い機会になりました。調査内容は様々な項目に渡ってまとめられ、後日報告させていただきます。床下や屋根裏など、目立った傷みや劣化はなく安心しましたが、やはり耐震性について指摘がありました。建物の規模や重さに対して開口部が大きく、特に南に面した縁側などはほとんどが窓になっており、耐力不足に加えて、耐震壁のバランスの悪い建物との評価になりました。今回の建物が特に悪いのではなく、一昔前の大工さんのつくった和風建築に多く見られる傾向で、今の耐震基



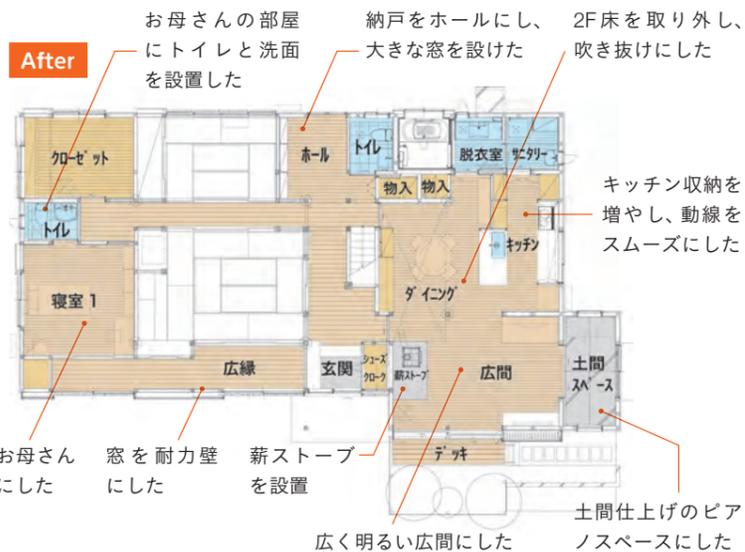
暖かな日差しが差し込み、居心地の良い縁側空間。このスペースは床板のみ新しく張り、その他は既存のままとした。天井や塗り壁など、少し前まで当たり前にあった懐かしい住まいを思い出す。



玄関突き当りの納戸をやめて、植栽の見える大きな窓を設置した。暗かった廊下も明るくなり、心地よいスペースになった。



After 改修後の外観。全体としては大きな変化は無いが、南面の大きな窓を耐力壁にし、その部分を戸袋として外観を整えた。柿渋色の色合いが明るい雰囲気をつくっている。



今回の計画は、主にリビングやキッチンなどの生活空間を中心に行った。プランとしては大きな変更は無いが、キッチンから水廻りの動線を確保し、中廊下をやめて収納を充実させた。お母さんが一人で暮らしていた家だったが、改修後は家族が増える事を想定して計画し、家族みんなが快適に暮らしていける間取りを考えた。

仕様内容

家族構成	家族4人
延べ床面積	200.98㎡
築年数	32年
用途	専用住宅
竣工	令和4年3月

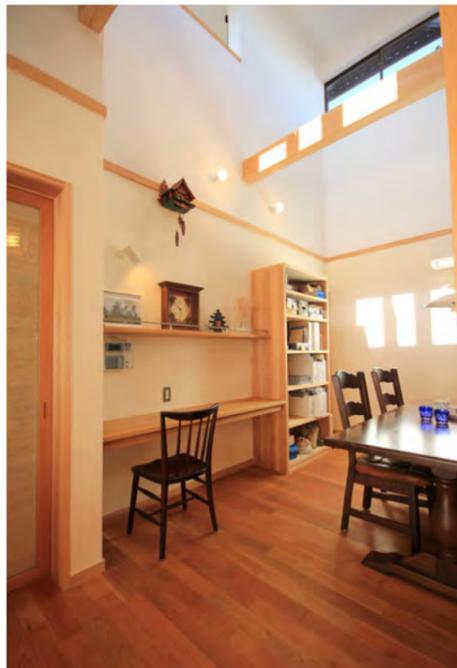


Before 改修前の外観。どっしりとした和風建築で、築30年以上経過した現在でも綺麗に保たれている。外壁も一度メンテナンスされており、目立った傷みはなかった。

準で見ると耐力不足の判定となってしまう。結果だけ見ると少し沈みがちな気持ちになります。今回のリノベーション計画は、間取りや仕上げの変更と合わせて、どうせ内部の壁を取り外すのなら、耐震性や断熱性などの性能も向上した改修工事にしていこうと前向きな計画になりました。方向性が決まり、構造計画とプラン決定の関係に注意しながら窓や壁の配置を決めていきました。大きな内容としては、暗かったダイニングの2階床を取り外して吹き抜けとする事。キッチンや水廻りを使いやすい動線とする事。お母さんの部屋を1階に設け、収納やトイレなどの水廻りを近くに設ける事がありました。2階はTさん夫婦の寝室や、来客用のゲストルームを設けましたが、耐震補強に重点を置き、間取り変更は行わず仕上げのみを新しくしました。耐震工事や断熱工事は予算に大きく関わります。そのままでも良い壁や床、天井についても耐震工事を行うために一旦解体しなくてはならない部分もあり、結果として総費用が大きくなってしまいます。今回も和室や玄関、縁側などはなるべく解体しないように考え、構造計算を何度も繰り返しながら優先順位を決めて慎重に行っていました。最終的に和室と書院はそのままに、縁側は一部の窓を耐力壁にした程度でまとまりました。



元々リビングにつながった出入口スペースだった部屋を改修して土間仕上げのピアノスペースとした。リビングとは雰囲気が変わり、ちょっと贅沢なスペースが出来上がった。



使われていなかった2階の部屋の床を取外し、吹抜け空間とした。既存の3つの窓から光が差し込み、一日を通して明るいダイニングになった。

Before



改修前のダイニングキッチン。窓からの光が届かず、日中でもうす暗い部屋になっていた。一日の多くの時間を過ごすキッチンですが、今回はこのスペースを改善する事が大きなテーマとなった。

After

改修後のキッチン。個室型のキッチンを明るくオープンなキッチンに改修した。キッチンは対面型とし、窓からの光がダイニングまで届くように大きな窓を配置した。



みんなでワイワイ使える 明るい空間

今回の計画の中心となったのは、リビング、ダイニング、キッチン。家族が毎日使うスペースを、一番居心地の良い空間にしたいと考えるのはみんな一致の意見。その中でも特に強い希望があったのは、明るい空間にしたいという事でした。今までのダイニングやキッチンは暗く、日中でも電気をつけて過ごす事が多かったと聞きました。新しい計画では、使われていなかった2階の部屋の床を外して吹き抜け空間とし、2階の三方の窓から光が入る計画としました。天井が高くなった事で開放感も生まれ、今までとは違った明るく気持ちの良い空間になりました。また、キッチンも個室型からオープンキッチンプランとし、窓からの光がダイニングまで届く配置にしました。東面の窓をなるべく大きくし、ダイニングからも外が眺められる窓にする事で、外に視線が抜けて広く感じられる工夫をしました。キッチンはそのまま水廻りとながり、サニタリースペース↓洗面脱衣室↓浴室につながる動線を確保しました。動線の途中には収納も充実させ、パントリーや水廻りのストック、掃除道具なども収納できるスペースを確保しました。

既存スペースを利用して、 ちょっと贅沢な空間に

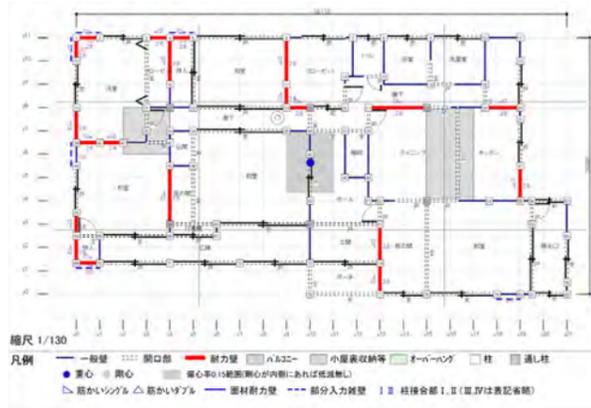
調査に行った時から気になっていた、リビングと繋がる出入口スペース。後に増築された場所で、玄関が汚れないように主に家族が入り出すスペースだったそうですが、だんだん生活も変わり、改修に合わせて違った利用方法を考える事になりました。それぞれの意見がありました。最終的には土間仕上げのピアノスペースとなりました。リビングとは違った雰囲気にしたかった事と、やはり出入りにも使うだろうという事で土間に決めました。リビングとの間には藤網の建具を設け、仕切られているようで繋がっている、ちょっと贅沢な空間が出来ました。土間には観葉植物や素敵な椅子を置いたり夢を膨らませ、生活に彩りをもたせる空間になるといいですね。今回は改修工事の事例を見ていただき、新築とは違った視点で家づくりをご紹介しました。空き家利用や既存住宅のリフォームなど、現代に求められる内容で興味のある方も多いと思いますが、リフォーム工事は単に内装の仕上げを綺麗にしたり、設備を替えるだけでなく、耐震性や断熱性をアップさせ、建物の性能向上にも目を向けていただきたいと思います。今回の特集がリフォームの内容を考えるきっかけになると嬉しいです。



住まいの診断レポートから 家の健康状態をチェックしよう。

人が健康診断を受けるように、住まいも定期的な診断を行う事が重要です。耐震性や断熱性、劣化具合や設備の老朽化など、我が家の状態を知る事は、安全に暮らしていくための重要なポイントです。住宅医協会では、押さえておきたい大切な事項について診断レポートを作成し、問題点を示し、今後のリフォーム工事などの参考になる報告書を作成しています。また、耐震性や断熱性については補強計画を作成し、今後のリフォーム等に活かせるアドバイスも行っています。

Before



上部構造評点 = 保有耐力 (edQu) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	壁の耐力 Qu (kN)	配筋低減係数 eKf	劣化係数 dK	保有耐力 (edQu) ※		必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	グラフ
					edQu	edQu ※			
2	X	11.31	1.000	0.70	7.91	28.70	0.27	[Bar chart showing low score]	
	Y	17.78	1.000	0.70	12.44	43.0	0.29		
1	X	40.81	0.789	0.70	22.53	104.82	0.21	[Bar chart showing low score]	
	Y	58.91	0.833	0.70	34.35	104.82	0.32		

※ edQu = Qu * eKf * dK

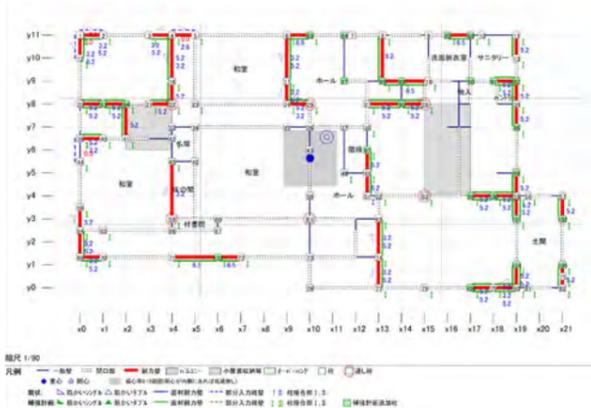
総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点のうち最小の値	評点	判定
1.5以上	◎	倒壊しない
1.0以上~1.5未満	○	一部倒壊しない
0.7以上~1.0未満	△	倒壊する可能性がある
0.7未満	×	倒壊する可能性が高い

0.21

現状の耐震診断書。床下や天井裏から確認出来た筋違いを入力して評点を出す。見えない部分も多く、この時点では評点が低くなる事が多い。図面からも南面の窓が多く壁が少ないのがわかる。耐震性は壁のバランスも重要。

After



上部構造評点 = 保有耐力 (edQu) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	壁の耐力 Qu (kN)	配筋低減係数 eKf	劣化係数 dK	保有耐力 (edQu) ※		必要耐力 Qr (kN)	評点 edQu/Qr	グラフ
					edQu	edQu ※			
2	X	45.02	1.000	0.81	36.46	34.44	1.05	[Bar chart showing high score]	
	Y	48.80	1.000	0.81	39.52	34.44	1.14		
1	X	156.93	1.000	0.70	127.11	125.79	1.01	[Bar chart showing high score]	
	Y	166.99	1.000	0.70	135.26	125.79	1.07		

※ edQu = Qu * eKf * dK

総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点のうち最小の値	評点	判定
1.5以上	◎	倒壊しない
1.0以上~1.5未満	○	一部倒壊しない
0.7以上~1.0未満	△	倒壊する可能性がある
0.7未満	×	倒壊する可能性が高い

1.01

補強計画後の耐震診断書。壁や床、天井を改修する部屋、取外し出来る壁を検討しながら耐震壁を配置していく。改修計画では評点1.0以上を目標に設計していく。改修出来る部分とそうでない部分の見極めが重要。

改修設計は、詳細調査が重要

普段見る事のない床下や天井裏。リフォームを考え始めたら一度調査をする事をお勧めします。シロアリ被害や木材の傷み、設備からの漏水など、そのままにしておいては重大な問題にもつながる大切な事。リフォーム業者に頼む前に、住宅医などの専門家に相談してください。

屋根裏 主に構造材のチェックをします。金物の有無や小屋梁の様子を図面にし、改修設計に活かします。



屋根裏に潜ると屋根を支える大きな梁を見る事が多い。丸太を加工した太く立派な梁。大工の丁寧な仕事が見ることが出来てうれしい。

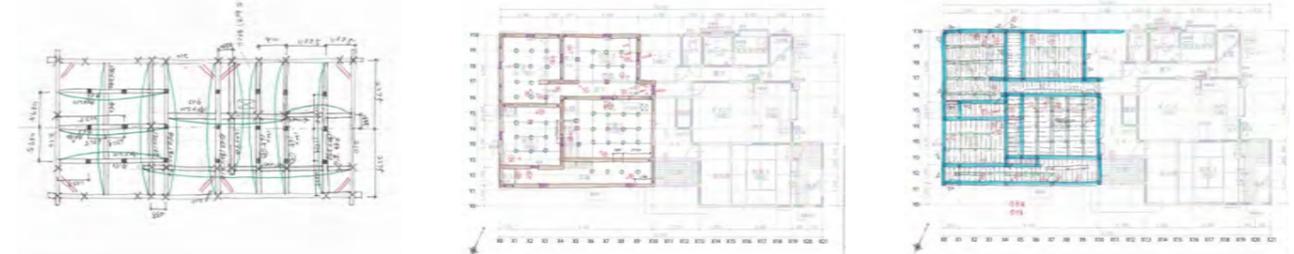


棟木に当時の大工と施主の名前が書かれていた。大工も自慢の建物だったのだろう。小屋裏には配線や配管が無数に通っている。劣化や不備など無いか構造材と合わせてチェックをしていく。



撮影用の棒を使って屋根瓦を確認。屋根に上らなくても見ることが出来、瓦の割れやズレなどをチェックする。外部にもチェック項目は多い。既存の図面が無い時は、後の改修設計のために高さや大きさを測るのも調査の仕事。

野帳づくり 調査では床下や屋根裏に潜ってその場で図面を作成する事も仕事のひとつ。フリーハンドで綺麗にまとめるのは設計の経験が必要となる。



小屋裏で作成した小屋梁伏図。梁の掛かり方や大きさ、金物の有無などを記載していく。

基礎の立上り図を作成。人通口の位置や東石など、後の設計に役に立つ。

土台伏図を作成。大きな家なので、右と左に分けて調査した。

床下 床下は家の中で一番危険が潜む所。湿気を好むシロアリや腐朽菌、基礎の状態もチェックしましょう。



床下に潜り調査を行うスタッフ。狭い空間なので移動が難しいが、家の中で一番傷みが進む部分なので慎重に調査を進める。



基礎のひび割れをチェック。大きなひび割れは水が浸入して基礎の中の鉄筋を錆びさせる事があるので注意が必要。築30年以上経過する建物は、床に断熱材が入っていないことが多い。家が寒い、底冷えする等の問題はここにある。



床下木材の含水率を測定。床下の湿度が高いと、シロアリや腐朽菌が好む環境になる。部屋にレベル器を置いて床の不陸を調査。大きな傾きがあれば地盤沈下を疑うこともある。今回は問題なし。

一般社団法人住宅医協会
Society of Architectural Pathologists Japan
https://sapj.or.jp/

一般社団法人住宅医協会では、各地で住宅医スクールを開催し、全国で活躍する住宅医を育てています。住宅医は、既存の木造住宅の調査や診断、改修設計など、リフォームやリノベーションといった工事の前に必要な図面や調査書などを作成しています。

また、知識だけでなく、分析力・技術力・実践力を備えた住宅医は、既存住宅の長寿命化や性能アップ、空き家などの有効活用が急務とされる我が国において、活躍が期待されている職能です。

SALEPEPE



出来る限り身体に優しく、美味しく楽しくイタリアの味ををモットーに毎日シンプルに季節の野菜を中心としたバランスの取れたメニューをご用意して草薙でお待ちしております。ご家族、ご友人同士、お1人様でも…心地よいお食事の時間を過ごしていただければ嬉しいです。takeoutもお電話でのご予約制をご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい(メニューはInstagram ハイライトよりご覧いただけます)。

[住 所] 静岡市清水区草薙1-9-3
 [TEL] 054-345-0354
 [OPEN] 11:30~14:00 17:30~20:00
 [定休日] 火曜、月曜の夜

[SNS]
 Instagram: @salepepe_ryoko



ママになるまで ママになっても
 ずっと寄り添う助産院

お茶畑助産院



お茶畑助産院は、お産ができる助産院です。正確にはお産もできる助産院です。助産師によるアットホームなケアで、妊娠、出産、育児とずっと寄り添います。ママと赤ちゃんがゆったり過ごせるように、木のぬくもりや通り抜ける風、虫や鳥の声を感じる心地よい空間です。様々な講座を日々行っており、当院で出産していない方もご利用できますので、HPをチェックして気になるイベントがありましたら是非お越しください。

[住 所] 袋井市豊沢2158-3
 [TEL] 090-8457-5480
 [OPEN] 完全予約制
 平日9:00~17:00 土曜 9:00~12:00
 [定休日] 土曜の午後、日・祝

[URL]
<https://ochabatake1103.jimdofree.com/>



私の好きな 愛い道具たち vol.6



うつわ暮らしの道具テクラ
 店主 宮入由起
 静岡市葵区で仕事の商品をみなさまにお届けするお店と管轄です。主人と二人の娘の4人暮らし。夢は旅をしたがら絵を学ぶ旅日記を出版すること。仕事も暮らしも染み込ませたい



こんにちは。テクラの宮入由起です。今回はテクラでモコアなファンが多いアイヌ民具を作られる高野繁彦さんのご紹介をさせて頂きます。高野さんの作品に出会ったのは、お店をはじめた頃、日本民藝館の民藝館展で出品されていたホニニ(小さい木の器)を見て、一目ぼれ、ケイタイのXモに「高野繁彦 アイヌ」とXモしたと、今でも覚えています。それは数年後、旅先の二風谷で偶然高野さんにお会い出来た後、何かが二風谷へ行き、お話を伺いお仕事を志す事と決まると今に至ります。高野繁彦さんは東京生まれ20代の時セブ島の旅の途中、二風谷にたまたま降り立ち、そこで師となる貝沢宇幸氏にお会い。アイヌ民具に心惹かれ、二風谷に移住されました。貝沢宇幸氏の下で木彫りの修業をし



1979年に独立、職人として木工民具でも作るように志高くアイヌ民具を作り続け、もう約50年となりました。現在はアイヌ文化の伝承のお仕事、国立博物館の収蔵品を作られたりと、精力的にお仕事をされています。どうしてこんなに心惹かれるのか(アイヌ文化はまだまだ勉強中なのですが)それは木の道具に祈りと美しさが備わっているからだと思います。1夕(お盆)やニニ(木のお皿)には、身を削るため、愛情を表すための木模様を心を込めて施され、食器やお盆に盛りつけた食べ物を食べて痛氣にならないようにと厚紙が込められています。11枚2枚を考えると、本当に素敵だなと思います。テクラでも時々(遅いタイミング、たのびすが)高野さんのアイヌ民具をご紹介しています。ただ今、静岡市立井沢金銭美術館にて開催中の「アイヌの衣装 - 道々のある布の造形 -」展に合わせ、museumshopではアイヌ民具、高野さんの奥様の啓子さんの来りしう作品を展示しています。井沢氏の素晴らしい作品、一作品のアイヌ収蔵品、そしてmuseumshopの高野さん夫婦の作品、貴重な機会、是非お出かけ下さい。(静岡市立井沢金銭美術館 museumshopはテクラが運営させて頂いています)

うつわ暮らしの道具テクラ
 Instagram @tekura_miyairi @tekura2013yk(私) @miyaiyuki(イラスト)

「コロラボ設置店」より...



「Kokolab」 Facebook ページ

Instagram @kokolab.ie

KoKola.b.

隔月刊 ココラボ通信 No.101

2023年2月発行

発行人 有限会社ころ木造建築研究所
代表 山崎健治

〒427-0011 静岡県島田市東町1047-2

TEL : 0547-54-4556

FAX : 0547-54-4557

http://www.kokolab.jp

E-mail : office@kokolab.jp

担当

山崎良江(「ココラボ通信設置店より…」担当)

編集… Branch 村上幸枝

印刷所… 松本印刷株式会社

※本誌記事の無断転用や
コピーを禁じます。



[購読を希望されます方へ]

当社ホームページのお問合せフォーム又はTEL、FAX、E-mailのいずれかでお申込み下さい。

年間購読料…1,200円 / 一冊定価…200円

(上記料金は発送費として頂いております。)

※当社、もしくは通信設置店では、無料配布しています。

会社概要

当社は、地域木材と職人の伝統技術を用いて木の家造りを行っている設計事務所です。隔月発行の『ココラボ通信』、また『こころばスクール』やイベントなどを通し、住宅や暮らしを取り巻く様々な情報を発信しております。

編集後記

ココラボ通信も101号となり、新しいスタートとなりました。『こころばの家@静岡』も外構が全て整い、今年は『こころばの家@島田』と合わせて、たくさんの方に見ていただけるように、様々な企画をしていきたいと思っております。住まいは完成してからが大切と言いますが、当社での建築も増え、100棟以上の住宅が完成しています。定期点検やメンテナンスも行い、家が完成した後も住まい手と交流が出来る事は喜びでもあり楽しみでもあります。最近では、今回ご紹介したお宅の様に改修工事を依頼される事も増えてきました。住まいの形、家づくりは人それぞれですが、建築屋として、職人と共に深く関わっていきたく思います。

(山崎健治)



Information

🏠 藤枝市『Peakの家』完成見学会を行います。

昨年秋からスタートしたTさんご家族のお宅がいよいよ完成です。現在お住いのお宅の敷地内に新しい住まいを建築し、子世帯との新しい暮らしが始まります。Tさんのお宅の特徴は、準防火地域でありながら板倉の家の良さをそのまま現した木の家です。また吹き抜けや薪ストーブ、鉄平石の土間リビングなど遊び心満載のお宅で、これからの日常が楽しみのお宅になりそうです。

◆ 日時：2023年4月上旬(土・日) 10:00～17:00(予約制)

※詳細日程はHP、またはSNSでご確認ください

◆ 場所：藤枝市

※見学会の詳細情報はココラボホームページ [http://www.kokolab.jp] でお知らせします。

※コロナウィルスの影響により、開催の変更がある場合があります。ホームページにてご案内いたします。

🏠 構造見学会

島田市『テンプの家』

◆ 日時：2023年4月下旬(日)

10:00～17:00

◆ 場所：島田市

※予約制となっておりますので、
当社までご連絡下さい。

🏠 木の家相談会

木の家の仕組み、予算など、
何でもご相談ください。

◆ 日時：3月4・5日(土・日)

4月1・2日(土・日)

10:00～17:00(予約制)

◆ 場所：『こころばの家@静岡』
『こころばの家@島田』

2つの『こころばの家』が見学出来ます

2つの『こころばの家』は、同じ木の家ではありますが、それぞれ違ったテーマでつくられています。敷地環境や家族構成、空間のつくり方や素材の選択など、自分たちに合った暮らしを探す中で参考にできればと思います。

毎月第一土曜日、日曜日をオープン日とし、展示場を見学していただく事が出来ます。ホームページ内の申し込みフォーム、またはお電話でご予約下さい。

『こころばの家@静岡』 静岡市駿河区新川2丁目5-29 電話：054-270-7658



『こころばの家@島田』 島田市東町1370-4 電話：0547-54-4556

